

令和四年九月吉日初版作成

神聖はチャクラと印を
通して現れる

高嶋善三郎

目次

- チャクラとは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- チャクラを正しく開き、肉体を開発する・・・・・・・・・・4
- 次元上昇することにより、正しくチャクラを開いた・・5
- チャクラを活性化することによって現れる変化・・・・・・・・6
- チャクラが開かれた神人の近い将来の姿・・・・・・・・・・8

本資料は、これまで作成した資料のうち、チャクラに関する内容について、まとめて整理したものです。

日々の神聖復活の印を組む心構えを考える上で、多々参考になることでしょう。(引用資料 『神意識の顕現』 『呼吸そのものが祈りになる』)

お願い

既を作成した資料(バックナンバー)は、ウェブ・サイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。次の連絡先にお問い合わせ致します。

(携帯) 090-3346-0019

(メールアドレス) zensan@peach.ocn.ne.jp

チャクラとは何か

一般的にいわれているチャクラの解説をみてみましょう。

チャクラは、サンスクリット語で車輪を意味し、①車輪のように回転して渦巻く肉体のなかのエネルギーセンター。全身へエネルギーを分配して維持するという特別な役割をもつ。②私たちの全体性の中の感情・肉体・霊・思考をつなぎ合わせるための機能を持っている。

肉体の中の七つの主要なエネルギーの渦巻きの働き等は、次のとおり。

第七チャクラ(頭頂)あらゆる霊的かつ宇宙的な情報とエネルギーをとりいれて、今世での霊的なゴールやこの世界で学び達成すべきことを統制するところ。

第六チャクラ(額の下の方の眉間にあり、「第三の目」または額のチャクラ)と呼ばれる(透視や自己イメージ、目に見える現実の認識を支配し、自分を取り巻く世界に自分自身の観念と真実をどのように投影していくかを規制する働きをもつ)。

第五チャクラ(喉の中央にあり、「喉のチャクラ」としても知られている)。「コミュニケーションや自己表現、創造的な表現のエネルギーを調整する。

第四チャクラ(胸の中心にあり「ハートチャクラ」とも呼ばれる)自己と調和的なエネルギーだけを引き寄せて純化する働きや、自己愛、人々との愛、自己価値、または自分という存在としての気づきと体験、ほかの人々の本質に対する賞賛をつかさどる。魂の座する場でもある。(ヨガでは、魂の座する場は心臓の裏側にあるといわれています)。

第三チャクラ(太陽神経叢のセンターとも呼ばれている)ほかの人々へのパワーやコントロールと同時に人からのコントロールをゆるすこともふくむ。聖なるパワーなどすべてのパワーと主権を保ち、エネルギーをコントロールする働きをもつ。また、すべての意志(それが聖なる意志であろうと下位の意志であろうと)、社会的な生活や目標、人のために取る行為、感情の活発な表現、自己を敬い尊ぶこと、さらに「エゴのセンター」などもこのチャクラによって統括される。

第二チャクラ(おへそと股間の丁度中心にあり、「仙骨のチャクラ」とも呼ばれる)性的で官能的なエネルギー、自分を慈しみ人を慈しむこと、感情という感覚的な資質、霊的感知能力、女性の「創造センター」を整える。

第一チャクラ(尾骨の最下部にあり、「ルートチャクラ」とも呼ばれる)安定あるいは不安定のエネルギーを保持する。つまり直観や地球とのつ

ながら、肉体との関係性、肉体の健康、食べ物や住居、衣服、お金（すくなくとも通貨交換システムのある文明では）のような生活のために必要なもの、可能的なもの、またはもっと原始的な本能的情緒反応などをつかさどる。『プレアデス 覚醒への道』407ページ）

チャクラを正しく開き、肉体を開発する

チャクラについて、昌美先生は次のように解説されています。

チャクラは自らの肉体と宇宙神とをつなぐ重要な働きをするものであり、チャクラを開くとは、宇宙神と直接交流し、自らの生命力を高めてゆき、自らの肉体を開発することとされています。即ちチャクラを開くと、宇宙神と直接交流することができ、自分の肉体を持ったまま生命力を高めていけることができます。

『白光誌』2009年6月号「チャクラと宇宙エネルギー」において昌美先生は「チャクラの機能と働きの効果」について次のように説明されています。

宇宙における生命の実体は、神性そのものである。そして、生きとし

生けるすべてのものが、シンクロシティの法則によって同時に発生し、同時に破壊しつつ、永遠に存在可能な状態となっている。即ち神性意識体も、霊性意識体も、物質体も、共時的に同時に発生して崩壊している。宇宙においては、時間、空間、分離感が存在せず、すべてが大調和し、進化創造されていく。人間の肉体も、宇宙の法則のもと、宇宙の気と全く呼応して生命活動がなされている。つまり肉体は自らの呼吸を通して宇宙神の無限なる生命エネルギーと交流し、そのエネルギーを体内に取り入れながら、生かされている。

チャクラは、この宇宙神の無限なる生命エネルギーを受けとめ、生命輝かに生きるために不可欠な、魂と精神と肉体を統一・調和する機能を果たし、また我々の神性、霊性を開くために大変必要な器官なのである。

チャクラの機能は、意識の窓を宇宙神に向かって開き、宇宙神の無限なる生命エネルギーを肉体に取り入れることによって、少しずつ活性化されてくるが、交流の深さや仕方により、活性化の度合いが異なる。特に神人たちが現在行っている呼吸法の印は、他のいかなる修行も追従をゆるさぬほどの絶大なるものである。

その印を組み、深く特殊な呼吸法を行なうことで、自らの神性意識体である魂と、物質である肉体エネルギーとが統合し、五井先生のお言葉

でいえば、神我一体となった私が、宇宙究極の大光明波動圏へと一直線に貫きわたり、宇宙神の究極の無限なる光の生命エネルギーを自ら呼吸し、吐くことにより、肉体のエネルギーと究極の宇宙神の無限なる光の生命エネルギーとが一体となり、調和し、フレンドした全く新しいエネルギーの波動圏がこの肉体界に、即ち富士聖地と神人一人一人の周りに創り出される。そうやってこそ初めて、神人たちの肉体の細胞、DNAを通して、肉体を構成している種々さまざまな機能、器官、組織に働きかけられ、閉じたまま、開かずのままであったチャクラが自ずと、開かれてゆく。

また、チャクラの働きは、自らの意識が神性、靈性に目覚め、高次元意識へと次元上昇するにつれて、次第に開いてゆき、それによって自らが自ずと直観し、体験してゆくものである。

チャクラが完全に開かれてくると、その人を通してイエスの宗教画や仏像の光輪にみられるような、黄金色に光輝いた目映いばかりの素晴らしい大光明を四方八方に放つてくると言及されています。

次元上昇するにつれて、正しくチャクラを開いた

『白光誌』2010年3月号「神人とチャクラ」において、昌美先生は、2010年の新年祝賀祭で、五井先生および大光明霊団、宇宙神の凄いエネルギーにより、私たちのチャクラは正しく開かれたが、なぜ正しく開かれたのかについて次のように解説されています。

チャクラは開いても、権力欲や自我や顕示欲などが少しでもあると、チャクラは神と真つすぐにつながることができず、人間の邪(よこしま)な念とミックスしてしまう。そしてチャクラにより引き出された力は間違った方向に使われ、世の中を乱してしまうこともある。また、チャクラが開いたことによって、カルマや死人が見えるようになり、自分でそれを浄めることが出来ずに狂ってしまったたり、不慮の死を遂げてしまう場合もあるのである。

それ故、私たちは正しくチャクラを開くためには、権力欲や自我や顕示欲など少しでもあってはならないが、私たちは全員次元上昇することにより、そのことをクリアし、チャクラを正しく開かれた。ここで言われている次元上昇とは、五井先生の指導により、私たち神人および神人予備軍全員が、靈的な事には一切関心を持たず、代わりに究極の真理を掴んでいくよう努め、即ち善なる愛の生き方、真理に沿った生き方を長年実践し、また自らの肉体への感謝も行ない続けて、神と通じる道を自

然に少しずつ開いていて、チャクラも徐々に開きつつあったことと説明されています。

五井先生および大光明霊団、宇宙神が凄いエネルギーを私たちに与えてくださったのも、私たちが次元上昇していなければ、私たちのチャクラは正しく開かれなかったということでしょう。この大光明霊団、宇宙神の凄いエネルギーを頂いたことと私たちが次元上昇したこととの関係について、昌美先生は卵の中の雛と親鳥の関係にたとえ、雛が殻の中で、だんだん心臓が出来て内臓が出来て目が出来て、最後に完成した瞬間に、自分のくちばしで殻に穴を開ける。この中からの合図で、親鳥がポンと殻をつつくことによって、そこから雛が生まれてくるのと似ていると言われています。

チャクラを活性化することによって現れる変化

また、今回開かれたチャクラについて、『白光誌』2010年3月号「神人とチャクラ」において、今後どのように取り組んでいけばよいかを示されています。

チャクラの数は、宇宙子科学では、七つであり、このたびの新年祝賀

祭でひらかれたのは、上から二番目のチャクラである額のチャクラであり、「叡智のチャクラ」である。チャクラは常に神とつながっているバキものであるが、全身の七つのチャクラの中でも、額と頭頂部のチャクラは神とつながる大切なポイントであり、ここから光の一筋が降り来たる(その他のチャクラは、内臓等の“見える器官”と密接に関わり、調和に導くチャクラである。)額の叡智チャクラが開き、かつまた怒りや悲しみと言った否定的想念が全く作用しなくなると、すべてのチャクラは自然と開いてくると言われています。

そして額の叡智のチャクラを開いた神人たちが、最初にするべきことは、自分自身をコントロールし、自分自身の治癒力を発揮することである。それは呼吸法により引き出されてゆき、意識で自分自身のバランスを取るのである。そうすると、そのバランスを取る時に、チャクラが開き、神との交流ができる生命エネルギーというべき「気」が綺麗に入っていれば、「今日は砂糖を食へ過ぎた」とか、自分で判るようになる。

また、病身であっても、それをいかにコントロールできるかが大事である。呼吸法を通して神とつながり、高く精妙なバイブレーションと自分とが、フィット(適合)すると、自分の未来も見えてくるし、自分の往き場所も見えてくる。そうすると不安や恐怖はなくなるのである。た

だその日が来るのを待って、最期の瞬間まで自らを高めあげてゆけば、自らの存在が光となり、皆の手本となるような輝かしい移行を遂げてゆけるのである。

さらに、才能や学業や職業、趣味や芸術においても、自分が心から現わしてゆくものを通して、神を顕現してゆくようになる。

このように自分自身が立派になり、謙虚に完璧な神の姿を現わすことによって、世界は平和になってくるのであるとされています。

チャクラが開いたときに個人的に現われるのは、予知能力ではなく、また予言する力でもない。自らの目を通して神を見、また自らの耳を通して神の声を聞くことができ、自らの心を通して神とのつながっていることが判り、自らの肉体もすべて整っていることが判るようになるのである。

人は、自分の目で現実を客観的に見ていると思っているが、実は自分の意識を通して現実を見ていて、その意識によっては、現実が現実以下に見えている場合もある。だが、神とつながるチャクラが開き、神のパイプレーションがあることが判るようになるので、感覚が微妙になり、風景も輝いて美しく見えるようになり、また音も味も、妙なる美しいも

のが感じられる。

そして、自分たちだけが素晴らしいのではなくて、すべての生きとし生けるものが全部つながっていることが実感できる。三次元世界にいながらにして、神界に生きられるようになるのである。

本来、我々は未来を判る必要もないし、「何年後にはこうなる」などというプロセスの出来事を予言する必要はないのである。一瞬にしてすべてが神そのものとなってしまえば、神の心が自分の心として判り、神のなさしめることが自然に判るのである。聴こえてくるものは「絶対大丈夫。すべてが光に包まれているし、人類の行方はすべて一つである」という神の言葉であり、そして自分もいつの間にか、自らの言葉を通して神の言葉を——人類が本当に行き着く美しい場所を、知らないうちに語っているのであると解説されています。

これから2012年、2020年と世の中が変わってゆく時に、さまざまな予言が飛び交い、予知能力を発揮する人が現われ、また環境汚染や破壊の問題も取り沙汰されるだろう。そのような世界にあって、神人たちは自分自身の姿を通して究極の真理を示すのである。自分自身が完璧に神とつながって「光なのだ、すべては一つなのだ、すべては破壊を

れることなく、神様の中に包まれて生かされているのだ」ということを実感し、それぞれが神人としての輝かしい生き方を示すことによって、世の中が自然に変わってゆくのであると言われています。

以上からチャクラの働きの展開を要約整理すると、自らの意識が神性、靈性に目覚め、高次元意識へと次元上昇するにつれて、チャクラが正しく、次第に開いてゆく。それによって、自らが自分の心を通してつながっている神のバイブレーションを自ずと直観し、個人の健康や幸せ、そして仕事や才能など、自分が心から現わしてゆくものを通して神性を顕現してゆくことを経験する。そのことが、人類の平和、人類が真理に目覚めることにつながっていくということになるということです。

チャクラが開かれた神人の近い将来の姿

また、チャクラが開かれた神人の将来について、『白光誌』2002年12月号20ページにおいて、次のように言及されています。

「いずれ神人と称される人々は、近々すべて全員筆舌に尽くせぬほどの知的光明体を体験し、閃光のように彼らの意識に対して、究極の真理の

全容が明らかにされる。彼らが願おうが願おうまいが、宇宙の大進化大創造に参入した神人たちはみな光の中に住し、自らの魂は神と全く同じ不死であることを知るに至るのである。(略)

究極の真理に目覚めた者は、常に最初にひらめきがあり、(無限なる直観)があり、そのひらめきに添って新しい能力が現われる。その能力は努力によってあらわれるのではなく、素直さ、無邪気さ、明るさ、自由な心、自ら信じる心から生じてくる。(略)

このように神人たちがまず率先して真理を自らの上に顕現させてゆくことによって、それらの生き方が宇宙空間に蓄積され、それが共磁場となって後に続く神人たちの大いなる助けになるのである。「」

チャクラと印を通して、大自然の根源である生命の働きを、その智慧と能力により大調和を達成していく働きである神性(神聖)を自分のものとした時、「人が自分を見て、『吾は神を見たる』と思わず思わせるだけの自分」が、自分の意識に関係なく、現れてきていることに気付くことであろう。また自分自身が完璧に神とつながって「光なのだ、すべては一つなのだ、すべては破壊されることなく、神様の中に包まれて生かされているのだ」ということを実感することになるでしょう。